

まごころこめて磨き合う なまづっこ



「なかまと まごころこめて すすんで やりぬく子」

～学び磨き・こころ磨き・健康磨き～

2024.1.9 発行

2024年 辰年 あけましておめでとうございます

今年辰年です。辰は想像上の生き物「竜・龍」に例えられています。龍は中国文化において神聖で強力な存在とされています。龍の象徴する「力強さ」や「成功」を象徴し、新たな始まりやチャンスの年として期待されています。今年も子どもたちが輝くよい1年であることを願っています。

新年を迎えるというのは、ただ1日、日付が替わっただけなのに、身も心も昨日とは違った感じになりませんか。「あらたまる」という言葉の通り、子どもたちは、その心境の変化を何かしらの決意に変えています。新たな気持ちで新年をスタートさせていこうとしているのが表情や声からうかがうことができました。

今日から学校では後期後半が始まりました。1月は「行く」、2月は「逃げる」、3月は「去る」というように登校日数が少ないこともあり、月日が過ぎるのが大変早く感じられます。しかし、この時期は新学年への橋渡しともいえる大切な時期でもあります。「6年生を送る会」「卒業式」「修了式」とひとつひとつの行事を通して、学年でつけた力をふり返り、新学年への準備をする大切な時期でもあります。一日一日を大切に今学年を充実して過ごせるよう願っています。

最後になりますが、今年もご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

希望に満ちた未来へ向かう令和6年

大晦日に除夜の鐘を聴いたでしょうか。「除夜」というのは、大みそかの夜のことで、1年の最後の日に、古いことを除き去り、新年を迎えるために、108つ「除夜の鐘」を鳴らします。なぜ108つなのか、理由は諸説ありますが、仏教の世界では、人には108の煩惱があると考えられてきたからだそうです。煩惱とは、人の心を惑わせたり、悩めたりする働き（心の乱れ、汚れ）をいいます。108つ鐘を鳴らすことで、煩惱を祓うことができると考えられてきました。（「四苦（4×9）」「八苦（8×9）」をたすと108になる）本来は、厳しい修行を積んだ人が煩惱を払うことよって悟りを開くことができるという意味があるのですが、修行を積んでいなくても、心の乱れや汚れを祓う力があると信じられているため、今でも続いているのだそうです。

子どもたちも4月に「こんなことをがんばろう」「これを続けていこう」という願いや思いをもって1年をスタートしてきました。しかし、もしかしたら、少しずつ気が緩んで『まあいいや』という気持ちが出たり、仲間のことよりも自分のことが優先になってしまったりしたことがあったかもしれません。新年の初めにあたり、もう一度自分を見つめ、良くなりたい自分を前に押し出してスタートができる、そんな力が「除夜の鐘」にはあると思います。

また、正月の「正」という漢字には、「あらたまる、きちんと」という意味があります。「正月」とは「あらたまることができる月」です。古来より日本人はそうやって年の初めを節目とし、自らを振り返りながら次のステップを見つめ歩んできたのでしょう。後期後半は1年の締めくくりです。そしてさらに飛躍するチャンスがあるということです。今まで積み重ねてきた力をいかし、さらに向上していくよう指導・支援をしていきたいと思っています。